



「投資動向に関するアンケート」調査結果

<第6回調査>

2009年12月1日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施することになりました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるとい形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の国政選挙など、市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2009年11月18日(水)13:00～2009年11月25日(水)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『ネクスト総合口座』、『FXトレード口座』のいずれか一方、または両方に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。

今回の有効回答数は、6390件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

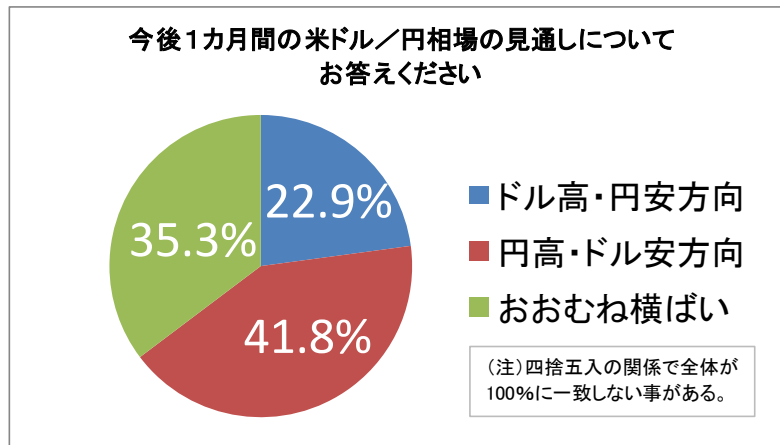
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2009 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第6回調査結果略報：ドル円予想DIは円高方向に転換】

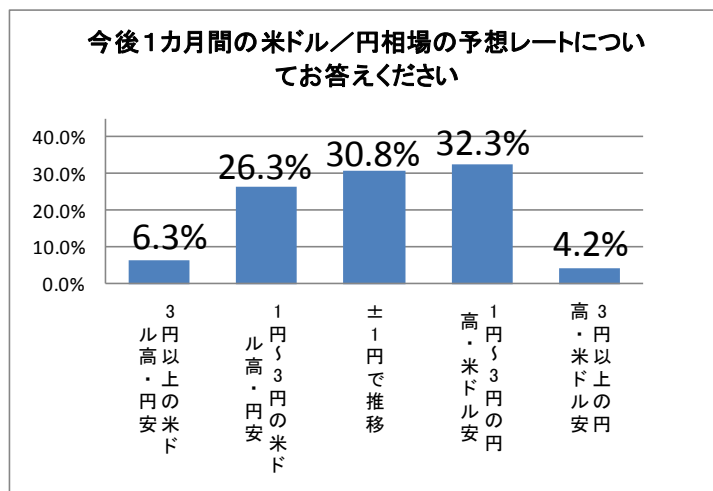
問1：今後1カ月間の米ドル／円相場の見通しについてお答えください

今後1カ月間のドル円相場見通しについては、「ドル高・円安方向」と答えた割合が22.9%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合が41.8%となった。この結果、「ドル円予想DI」は▲18.9%ポイントと、前回の+20.8%ポイントから一転してかなり大幅な円高方向に変化した。調査期間中のドル円相場は、89円台から88円台の狭い値幅のなかで円じり高気味に推移していたが、その後の87円台前半に向けてのドル円急落を予見していたような結果になっている。10月調査のドル高予想は空振りに終わったが、11月調査のドル安予想は的中した形になった。



問2：今後1カ月間の米ドル／円相場の予想レートについてお答えください

今後1カ月間のドル円相場の予想レートについては、「1円～3円程度の円高」と答えた割合が32.3%と最も多く、「±1円以内」が30.8%、「1円～3円程度の円安」予想が26.3%、「3円以上の円安」が6.3%、「3円以上の円高」が4.2%の順番になった。ヒストグラムの形状は、円安側にピークがあった先月からは一転して円高側にシフトした格好になっており、問1に示された回答結果とおおむね整合的であると言える。比較的機動的に相場見通しを入れ替えるFX投資家層の特徴が良く表れた動きだったと言える。

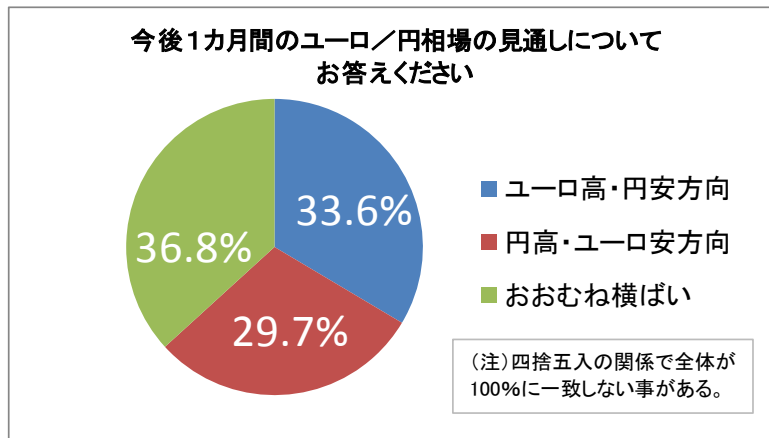


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2009 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

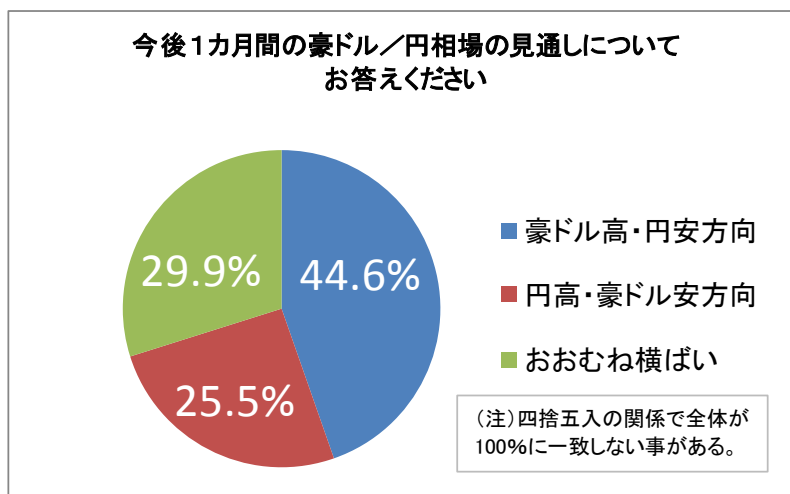
問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

今後1カ月間のユーロ円相場見通しについては、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が33.6%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が29.7%となった。この結果、「ユーロ円予想DI」は+3.9%ポイントと、前回調査の+33.7%ポイントから大幅に縮小した。調査期間内のユーロ円相場は、高値133円99銭、131円74銭の間で一進一退の動きとなっていたが、FX投資家層のユーロ強気心理は急速に弱まったようだ。なお、調査開始以来ユーロ円予想DIは恒常的にユーロ高予想を維持しているが、その幅が一桁になったのは今回が初めての現象である。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

今後1カ月間の豪ドル円相場見通しについては、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が44.6%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合が25.5%となった。この結果、「豪ドル円予想DI」は+19.1%ポイントと、前回調査の+45.1%ポイントから大幅に縮小した。調査期間中の豪ドル円相場は83円台から一時80円台に下落するなど軟調気味の展開だったが、高値圏での達成感や警戒感から強気派の勢いが押し返されたような結果になっている。ただし、豪ドル予想DIは調査開始以来常に二桁のプラスを維持しており、根強い強気派の存在が示唆されている。



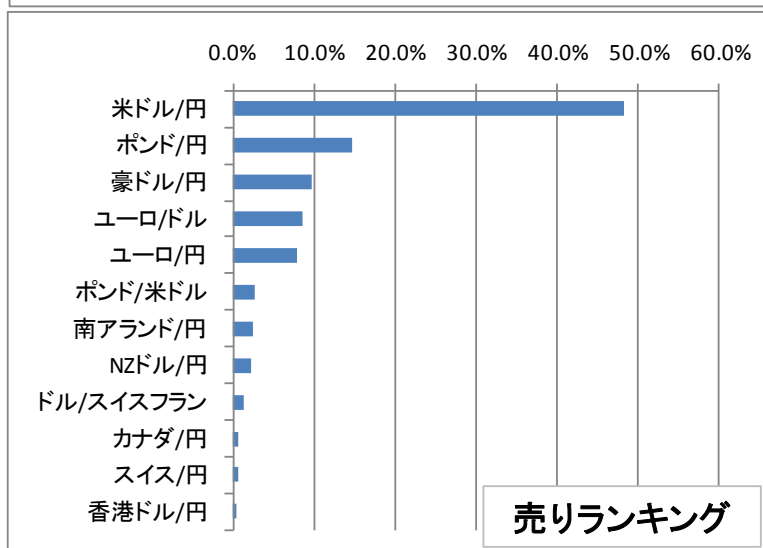
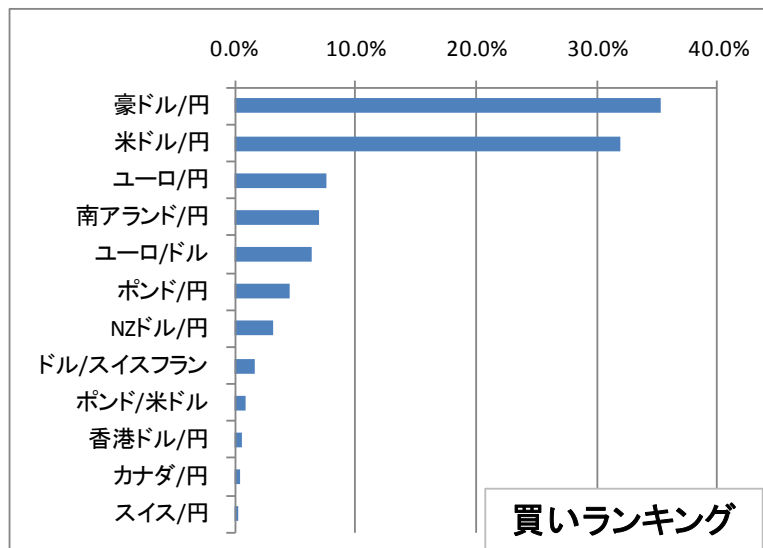
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2009 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

今後注目している通貨ペアについて尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位豪ドル円(35.3%)、2位米ドル円(32.0%)と前回と順位が交代した。以下、3位ユーロ円(7.6%)、4位南アランド円(7.0%)、5位ユーロドル(6.3%)の順となっている。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位が断突で米ドル円(48.3%)となっており、以下、2位ポンド円(14.7%)、3位豪ドル円(9.7%)、4位ユーロドル(8.6%)、5位ユーロ円(7.9%)の順で続いている。

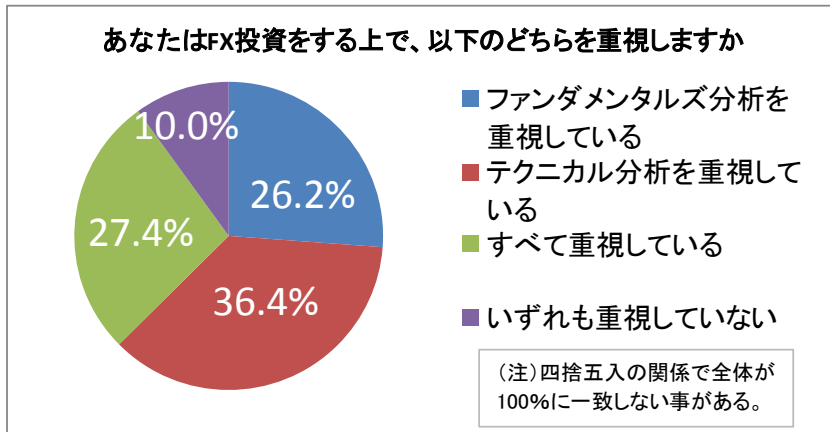
米ドル円は買いでも売りでも注目される通貨の地位を維持しており、入手可能な情報量の多さなどから、強気/弱気の相場観とは無関係の「売買の対象」として見た場合、最も人気の高い通貨になっている。一方、「買い」注目度で常に上位に位置する豪ドル円は、「売り」での注目度が相対的に低いという特徴があるが、米ドルと並ぶ人気通貨の座を維持している。なお、今回調査では南アランド円に対する注目割合が前回に比べて売買ともに上昇している。月初に勃発した東京金融取引所での南アランドの異常な値付け事件の影響で、注目度が高まったと考えられる。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

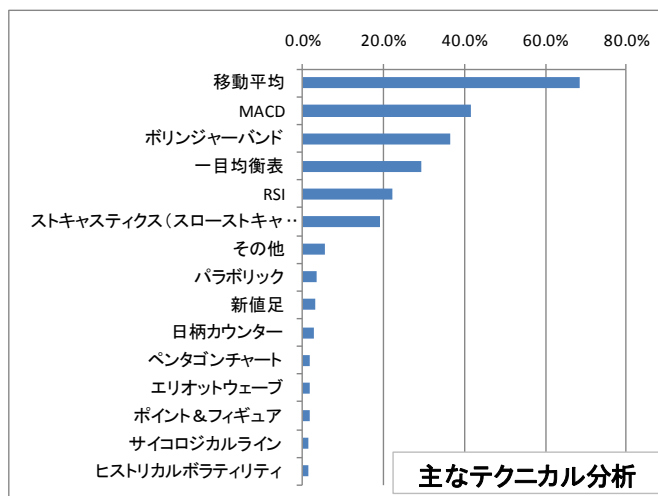
問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視する」と答えた割合が26.2%であったのに対し、「テクニカル分析を重視する」と答えた割合が36.4%と、相変わらずテクニカル分析を重視する投資家の割合の方が高かった。「すべて重視している」との回答割合が27.4%、「どちらも重視していない」が10.0%であった。調査開始以来、回答割合に顕著な変化は生じていない。FX投資家の分析手法の好みは相場環境に左右され難いのかも知れない。



問7: テクニカル分析では何を主に活用していますか?

「テクニカル分析で主として活用している手法」について複数回答可として尋ねたところ、「移動平均(68.6%)」が最も高く、「MACD(41.5%)」、「ボリンジャーバンド(36.4%)」、「一目均衡表(29.2%)」、「RSI(22.0%)」、「ストキャスティクス(19.0%)」の順番で並んでいる。個人投資家にも人気のテクニカル分析手法の顔ぶれ及び順位はあまり変わっておらず、今回も一番人気は移動平均分析だった。ただし、いわゆる「トレンド系」と「逆張り系」に分けてみた場合、前回同様ボリンジャーバンドやRSIなどの逆張り系の人気よりも移動平均やMACDなどのトレンド系の人気が高く、今秋の相場展開の中で逆張り志向が若干ながら減退したかのように見受けられる。

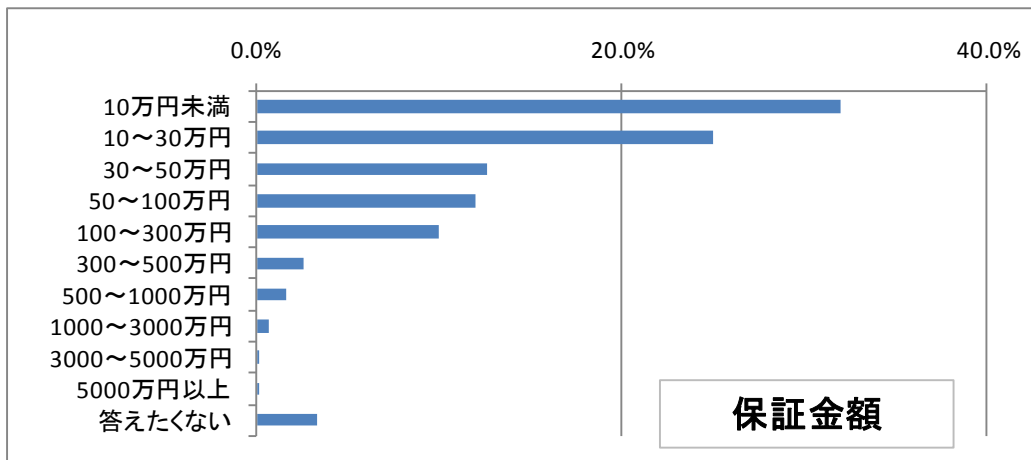


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2009 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

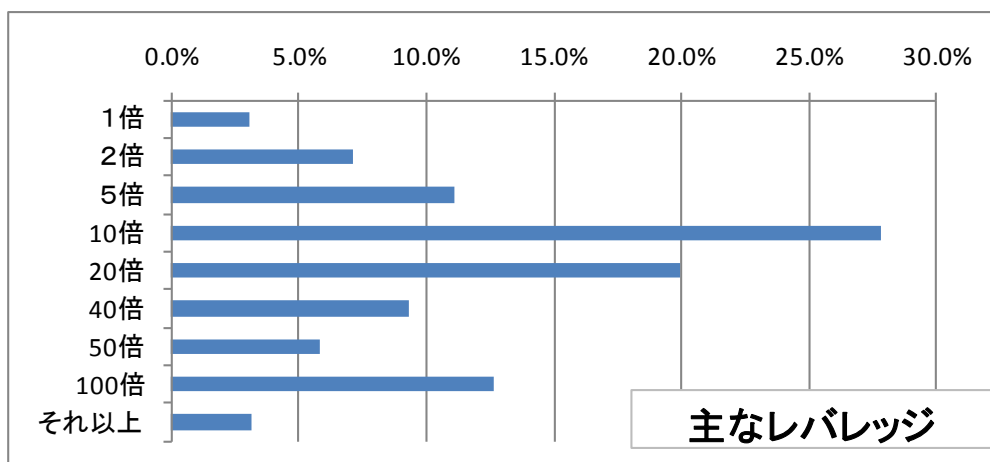
問8: FX取引の際の保証金の額についてお答えください

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、10万円未満と答えた割合(32.0%)が最も多く、10～30万円(25.0%)が2番目に多かった。回答者の過半数以上は、30万円以下に分布しているのが特徴だ。以下、第3位が30～50万円(12.6%)、4位が50～100万円(12.0%)、5位が100～300万円(9.9%)となっている。回答割合の順番は、基本的に保証金額の大きさと綺麗な反比例の関係にある。不特定多数の小口投資家に分散しているFX投資家層のすそ野の広さを再確認させる内容になっていると言える。



問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？

FX投資の際に主として活用しているレバレッジについて尋ねたところ、10倍と答えた割合(27.8%)が最も多く、20倍(20.0%)が2番目に多かった。これに次ぐ3位が100倍であったが、その比率は12.6%であり、「それ(100倍)以上」と答えた3.1%を合わせて15.7%であった。外国為替保証金取引について、高レバレッジの投資家層の「武勇伝」が一部の媒体で喧伝されることもあるが、今回のアンケート調査に答えた個人投資家の約7割は20倍以下の倍率を主として活用している。上記問8の回答結果と合わせ、比較的堅実なFX取引の実態が示唆されている。

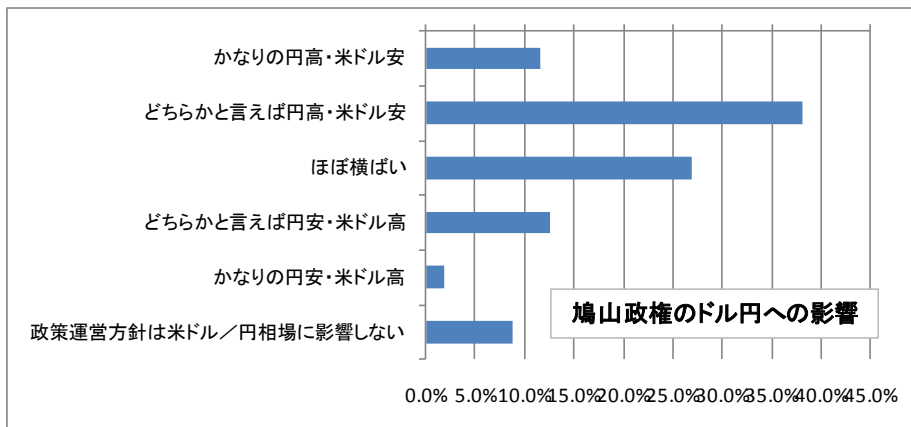


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2009 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

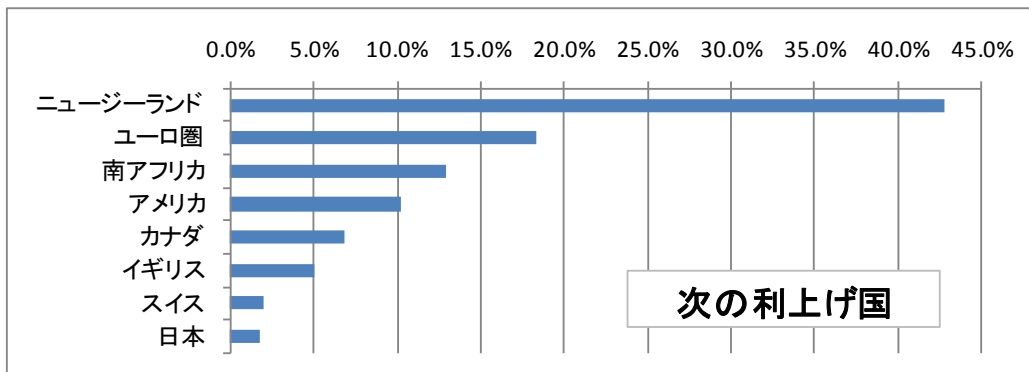
問10: 鳩山政権の政策運営をみた上でのドル/円相場への影響評価・・・

今月の特別質問項目として、「鳩山政権発足後2ヶ月が経ちましたが、この間の民主党中心の政策運営をみたうえで政策運営方針が今後の米ドル/円相場に与える影響についてお答えください」と尋ねたところ、「どちらかと言えば円高・米ドル安」が38.1%で最大だった。「かなりの円高・米ドル安」と答えた11.5%を合わせると、49.6%と約半数が円高・米ドル安だと考えている。ちなみに、「どちらかと言えば円安・ドル高」の12.6%、「かなりの円安・ドル高」の1.9%を合計した回答割合は14.5%、「ほぼ横ばい」が27.0%であった。実際の今年9月18日に公表した新内閣発足直後の「円高容認政権」というイメージが、数カ月たっても引き継がれている印象だ。



問11: オーストラリアの次に利上げする主要国は？

今月の特別質問項目として、「11月3日にオーストラリアが金融危機後2回目となる利上げを行いました以下に以下の国のうち、最も早く利上げすると思われる国をひとつだけ選んでください」と尋ねたところ、「ニュージーランド」が42.8%で最大だった。以下、「ユーロ圏」18.4%、「南アフリカ」13.0%、「アメリカ」10.3%、「カナダ」6.8%、「イギリス」5.0%、スイス2.0%の順番になっており、「日本」は1.8%で最下位だった。ニュージーランドと答えた回答割合の高さは、同じオセアニアのオーストラリアとの経済の結びつきの強さのイメージを反映していると考えられる。最下位が日本という結果は、前回調査で提示した個人の景況感の悪さや、最近取り沙汰されている本邦のデフレ懸念などを反映した結果であると言えるかもしれない。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第6回目となりました。前月との対比での時系列比較は徐々に可能になり始めていますが、まだ開始後1年未満ということもあり、前年同期との比較に十分な調査結果の蓄積は進んでおりません。このため、現時点では統計分析に深みを持たせるために必要不可欠な長期間の時系列比較を提示することはまだできませんが、今後、毎月定点観測で実施する調査結果の蓄積が進むにつれて、DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握も可能になってくることが期待されます。

毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年春先以降に公表する「年次白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2009年	6月	21.0	35.2	-14.2	38.4	27.2	11.2	48.8	23.7	25.1
	7月	34.6	33.6	1.0	40.2	28.2	12.0	45.5	26.3	19.2
	8月	36.3	30.3	6.0	41.8	27.3	14.5	50.7	23.3	27.4
	9月	32.1	41.3	-9.2	38.0	23.5	14.5	45.1	21.1	24.0
	10月	45.5	24.7	20.8	51.1	17.4	33.7	60.5	15.4	45.1
	11月	22.9	41.8	-18.9	33.6	29.7	3.9	44.6	25.5	19.1
	12月									
2010年	1月									
	2月									
	3月									
	4月									
	5月									
	6月									
	7月									
	8月									
	9月									
	10月									
	11月									
	12月									
	1月									
2月										
3月										

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2009 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com